

2012.7.1

No.41

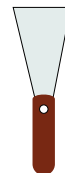
発行 町田市印刷工業組合



MACHIDA PRINT INDUSTRY

町田市印刷工業組合

事務局 町田市原町田4-18-16(協英印刷工業(株)内)

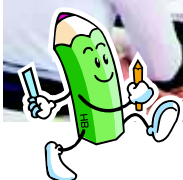


発行責任者 田中 健祐

第2回 PTA広報誌作成講習会 開催

2012.5.12 於：町田市教育センター

●主催：町田市印刷工業組合 ●後援：町田市教育委員会 ●協力：町田市公立小学校PTA連絡協議会



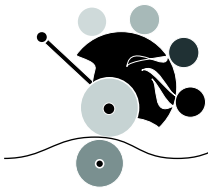
さあ、今年も一緒に広報誌の作り方を学びましょう！

一歩、一歩前へ！

町田市印刷工業組合 組合長 田中 健祐

政治経済が混沌とし、電気代・消費税の値上げに代表し一段と生活にゆとりが無くなっていく様な感じがします。自己責任、自助努力も当然ですが、やり甲斐が持てる環境を整備するのが政府であり組織の責任者である以上、常識や一方の利権しがらみを飛び越えてチャレンジしなくてはならないと改めて思います。

私達町田市印刷工業組合は小さい組織ながらも会員企業が色々な取り組みに携わり、公益的に活動しております。そんな小さな活動の一端が皆さんの役に立つ事かも知れないとの思いで今年5月に組合のホームページを立ち上げました。まだ生まれたてのサイトですので情報も少ないとは思いますが、覗いていただき、ご意見をいただきながらボリュームアップして成長していければ幸いです。結果、皆様の生活に役立つ組織・企業である様日々努力して参ります。



第2回 PTA広報誌作成講習会 開催

すぐに役立つ、
ためになる！

副組合長 安倍 正浩



平成24年5月12日(土)に第2回PTA広報誌作成講習会を開催しました。告知の遅れから当初は参加人数が少ないのではとの心配もありましたが、22名という多くの参加者を集めて大変充実した講習会になりました。

前年度から大きく変更した点は、会場を商工会議所会議室から教育センターにしたことです。実は、昨年も教育センターでの開催を検討しておりましたがいくつかのクリアーできない問題点を抱えてあきらめた経緯がありました。しかし、町田市公立小学校PTA連絡協議会様、教育センター谷課長様、教育委員会指導課統括コーディネーター田村様に多大なるご協力をいただき、教育センターでの開催を実現することが出来ました。

昨年の経験から組合の外のネットワークの大切さは十分に感じておりましたが、大事にしなければいけない人脈が今年も築けたと思います。又、開催告知チラシの発送にも町田市公立小学校PTA連絡協議会様、町田市立中学校PTA連合会様に大変なお力添えをいただきました。ご協力下さいました方々に感謝いたします。

当日は田中組合長の挨拶の後、相模プロセスの生越講師のテキストによる全体講習、記事の書き方について新聞を題材にしたダブルエーの松沢講師のお話、デジタルカメラの使い方の基本としてサクシードの細野講師のお話がありました。プロジェクターによる画像描写も有り大変わかりやすく説明されていました。

アイコー様による技術協力も大きかったです。どの話も実践的で頭に入れておいて損は無いという内容で、

参加者の方の大きくなずく姿や、一生懸命メモをとる姿が多く見られました。

休憩を挟んでコスモプリントの山本講師によるレイアウトの仕方、割付作業の実際というお話がありました。ここでは実際に割付用紙を使って割り付け作業をやってみたりもしました。

また、参加いただきました皆様が現在発行している各学校の広報誌を順番に発表してもらった時間も作りました。皆さん他の学校がどんな広報誌を発行されているのか大変興味があるらしく、サイズやページ数、カラーなのか一色なのか、そして発行回数など詳しく発表される内容に耳を傾けていらっしゃいました。中にはプロ級のイラストを表紙にした広報誌もあり、会場内で講師も含め驚きの声がかかる場面もありました。

質問も受け付けました。各学校により予算等様々な事情があるようで、熱心に質問される姿に広報委員の方々の熱意が我々にも大きく伝わってきました。

土曜日の開催ということもあり、お子様の参加もありましたが講習中はどの子もみんな静かで立派でした。

この講習会も、我々町田市印刷工業組合の社会貢献活動の一環として今後も継続的に開催できたらと思っています。今年度参加された学校はぜひ来年も、参加できなかった学校は次回こそ是非講習会への参加をお待ちいたしております。

最後になりますが協力いただきましたすべての方々に感謝の意を表しまして報告といたします。

■ ホームページ開設

総務部

お客様各位

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。この度、当組合ではかねてより準備をすすめておりましたホームページを下記のとおり開設いたしました。

当ホームページは、組合員の紹介、技術情報、講習会の告知など幅広く印刷に携わる事例を紹介する内容となっております。

また、当組合は、このホームページの公開を機に印刷に関する情報を積極的に公開してまいりたい所存でありますので、当組合ホームページを奮ってご利用いただけますようお願い申し上げます。

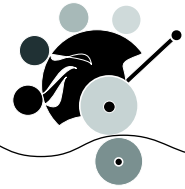
つきましては、お気に入りへご登録いただきますようお願い申し上げます。

1. 運用開始日 平成24年5月11日(金)

2. ホームページ URL

URL : <http://www.machida-pia.net/>





介護を意識したときに

高年齢施設取材の際、高齢者とそのご家族が福祉行政について関心が低く、制度を利用していない場合が多かったことに驚きました。

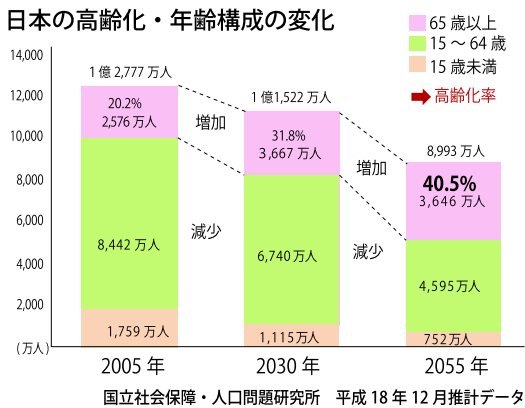
高齢化社会をむかえる上で介護は誰もが直面するテーマであり、今は不要という方にも意識していただききっかけになればと思い寄稿させていただきます。

十分な情報量ではありませんが、少しでもお役に立つことが出来れば幸いです。

佐久間俊英

高齢化の進む日本

日本の人口に対する高齢者の比率は年々高くなってきています。国勢調査では、1935年に65歳以上の比率は、全体の4.7%でしたが、2010年には23.1%に達しました。このまま推移していくと全人口も減少し、2030年には高齢者が31.8%、2055年には40.5%まで増加すると予測されています。



身近な人の対応がカギになる

老化には個人差があり、同年齢でも元気な方もあれば寝たきりの方もいます。病気の発症もさまざまです。

高齢者がおられる家庭では、家族同士の体や心の様子、暮らしの様子をよくみつめることが大切。時間があれば話を聴いて受け止めることも必要です(傾聴)。

最近取り沙汰される「孤独死」も高齢化の特徴のひとつ。団地の多い町田市も例外ではありません。核家族化などが原因で、近所との関係が希薄になってきている昨今、都市部の自治会よりも親密な近所関係を築いている、地方独特の「となり組」の制度が見直されてきています。

近所に独居の高齢者が住んでおられる場合は、常に気にかけて見守ることが重要になってきます。

社会全体で考える高齢化社会

少子高齢化が進む中、介護は家族だけで対処できる問題ではなくなってきました。高齢者が高齢者を介護する「老老介護」、軽度の認知症を発症しながら認知症の家族を介護する「認認介護」など問題は山積しています。

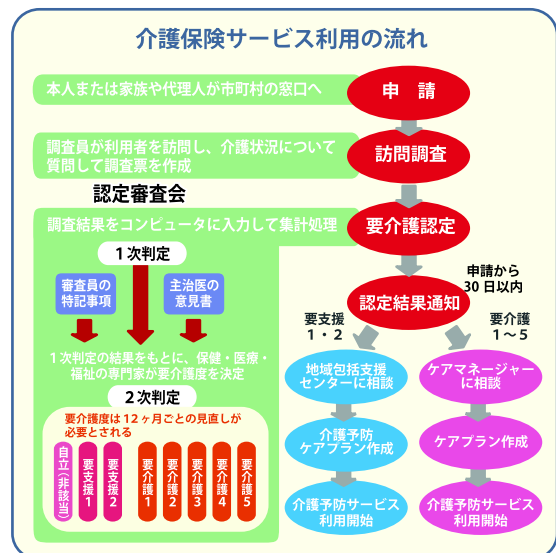
また、親の介護のために子が退職せざるを得ない状況に追い込まれたり、結婚せず介護に従事するといった状況も起きています。

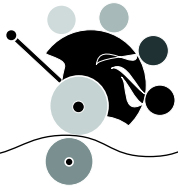
介護する側も「このような介護で良かったのか」と疑問を抱き、介護される側も「こんな老後では無かったはず」という思いで終末を迎えることは残念な気がします。

介護保険サービスを利用する

市役所窓口で「要介護認定」の申請をすると、後日訪問調査員が利用者宅を訪れ、本人の心身の状況や日常生活の自立度などの調査をし、その結果により要介護度が決定されます。

住まいの近くの地域包括支援センターや市区町村の窓口で相談すると、介護保険やそのほかのサービスについて教えてもらえます。まずは相談することが大事ですね。





15

再度、西部劇の世界へ

生越 昭夫



荒涼とした砂漠

昭和生れの人には懐かしい西部劇の世界、モニュメントバレー。今でもテレビのコマーシャルなどでも時々見る景色。今回はセスナでグランドキャニオンまで1時間半、そこで更に小さなセスナで1時間半、あこがれのモニュメントバレーに着いた時はもう飛行機酔いでフラフラ、寒かったのと気持ちの悪さでせっかく来たのと思っていた。

ところが、今回下の娘が“直行便があるよ”という、それならまた行ってもいいかと思って娘と一緒にいった。オプションで旅行会社に申し込むよりもインターネットで直に申し込む方が安いからと段取りは全て娘まかせ。

ラスベガスのホテルから現地時間で朝4時頃ホテルを出て集合場所に出発、パスポートは持ってきたか？と英語で言ったみたいで、アッ！ホテルに忘れてきた。



セスナ

あわててホテルまで取りに戻る、近かったのと早めだったのでなんとか間に合った。

集合場所からバスで飛行場（民間航空会社の飛行場）の受付に行く、娘いわく「私のカードで

払うから現金で頂戴！」いくら？（約4万円）日本で申し込むのと同じ値段「俺にはチットモ安くないじゃないか！」。まあいいか、俺は親父だ。そこでパスポートと体重も量る、セスナの左右のバランスを取る為らしい、グループに別れセスナに乗る。日本人のガイドが「今日は天気もよいし早く着くために高く飛ぶそうです」空から「あそこが…ここが…」と案内されながら直通で約1時間半の快適な飛行だった。

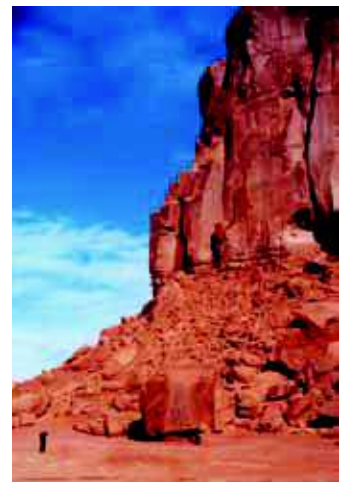
同じアメリカの国内でありながらなぜパスポートがいるのかと思ったらモニュメントバレーはインディアン・ナバホ族の居住区である、その為か。西部劇にもあったように昔は白人がインディアンと闘いながら領土を侵

略し、荒涼とした土地や砂漠の方に追い込んでいった。インディアン達はそこで荒れた畑や狩をしながら暮らしていたと言う、現代では昔のままの姿が残る世界的にも有名な観光地である。前に来た時は砂漠の中に滑走路が1本だけの所だと思っていたが家は少しは増えたようだ。着陸後日本で言うなら道路の端に車を止めるように滑走路の端にちょっと離れてセスナを止め、二人のパイロットも一緒にインディアンバスのバスに乗り観光をすることになった。

日本では正月だと言うのに気候は暖かく空は真っ青、モニュメントの赤土の岩も冴え風光明媚で素晴らしい景色「あゝジョン・ウェンが見たものと同じものを見ている」という実感、だがその岩達が全体にヒビが入り今にも崩れそうで実際相当崩れている。日本のような地震があったら一発で崩壊するだろうと思った。

お昼は木造のレストランでイ

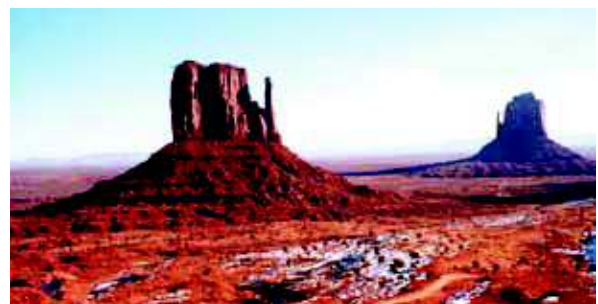
ンディアン料理、ウエトレスは普通の洋服を着たインディアンのオバチャン？風。店内の音楽はウェスタン、窓の外は荒涼とした西部劇の風景、午後になると寒い風が吹いてくる、冬だから日の暮れるのも早い。帰りはセスナの中で真っ暗になりラスベガスの上空に来ると夜景を見下ろせば、宝石箱をひっくり返したような町、手を伸ばせばすくい取れそうだ。



崩れている岩山

ラスベガスと言えばカジノで有名だが、そこを起点に色々なアメリカ西部を味わうことができる。もちろんカジノもやるが、まだ日本にもないスロットマシンやポーカーマシン、朝までパチンコ感覚で遊べる。

また色々な国際料理も食べられる。ただ最近は旅費もホテルも高価になり簡単にいけなくなって残念、またまた行きたい。



西部劇の世界